



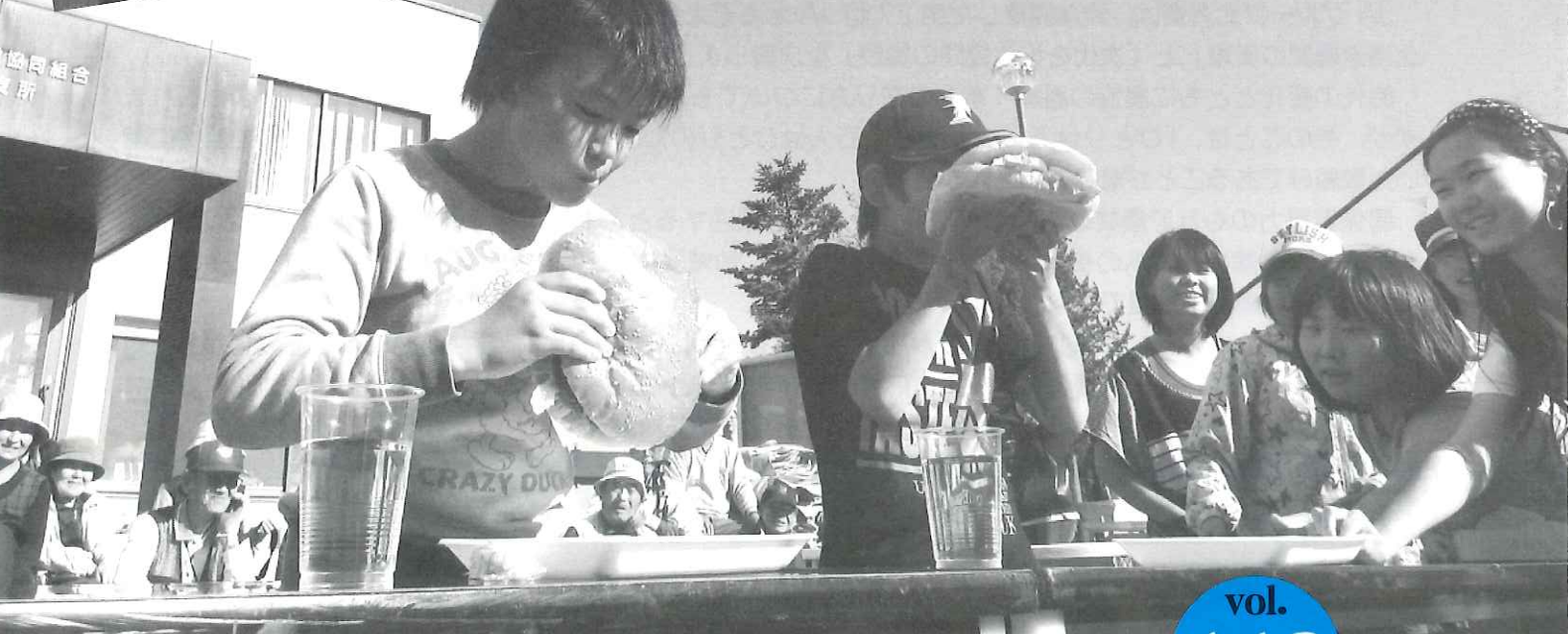
KAGAYAKU TSUBASA

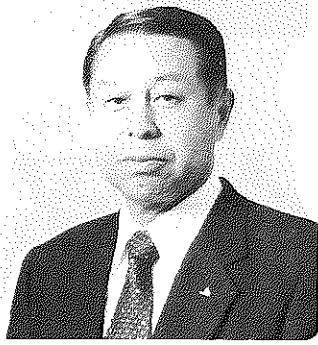
輝く翼



湧別町の空に飛ぶ白鳥を見た時、私は素敵だと感動しました。「JAゆうべつ町」が飛躍する事を願い、群れをつくり大空に羽ばたく真っ白な白鳥の様に、気持ちを新たに一致団結して前へ大きく前進する願いを込めてデザインのイメージをしました。そして皆さんが愛読するにあたって、優しく温かい気持ちになれます様にと虹の橋を架けました。先頭を飛ぶ真ん中の白鳥にはリーダーと言う意味があり、冠を付けてみました。

イメージデザイナー スワン





「農協法公布記念日にあたって～平成25年11月19日～」

北海道農業協同組合中央会
会長 飛澤 稔 晃

昭和22年11月19日に農業協同組合法（農協法）が制定され、今年で66年目を迎えました。

戦後の混乱期に食料確保の必要性和あわせて農民の自主的立場を確保するため、農村の民主化が最重要課題であった時代背景の中で、農協法が施行されるとともに農協が設立しました。

農協は「農民の農民による農民のための組織」で、相互扶助の精神が脈々と受け継がれ、農協を拠り所としてこれまで幾多の困難な環境変化を乗り越えるとともに、組合員の経営と生活の安定並びにより良い地域社会を築くことをめざして今日に至っています。

農協法は、時代の変化に即して必要な改正がなされておりますが、農協事業・組織運営の基本法として位置づけられ、極めて重要な役割を果たしております。

農協法公布記念日を契機に、農協の社会的意義と役割について改めて組合員・役職員が心に刻み、共通認識を深めることが重要であります。

国連は、協同組合の位置付け・役割を再認識し、協同組合活動の更なる充実強化をはかるべく、平成24年を国際協同組合同年（IYC）と定め、世界各国で関連する取組みが行われております。

協同組合組織の一員としてわたしたちは、農家組合員の営農と生活の安定向上をはかることを第一義として、地域社会全体の発展のため、その役割と機能をより一層発揮することが重要であります。

一方、世界的に食料・環境問題や社会・経済をめぐる多くの情勢変化が起きており、それに伴い、農業やJAをとりまく環境も影響を受けております。

直近では、TPP交渉問題や農業・農協等の規制改革の動きが大きな課題となっておりますが、TPPと規制改革は表裏一体の課題であり、改めて農業・JAの位置づけ並びに役割の重要性について、国民各層の理解を得る努力を行いながら、地域農業・地域社会の安定的発展につながる取組みを進める必要があります。

とりわけ、TPP交渉については、我々の声に理解を示さず半ば強引に交渉参加がなされるとともに、情報開示が極めて不十分な中、国民不在のもとで協議が進められておりますが、TPPが聖域なき関税撤廃のみならず、ルール改正や規制撤廃を同時に進める危険な協定であるとの認識に立ち、国会決議や自民党決議の遵守を強く求めていくとともに、不可能である場合は、直ちに交渉から脱退する必要があります。

併せて、わたしたち一人ひとりが国民生活全体に大きく影響する交渉であることを各方面に広く訴え、理解を喚起する活動を粘り強く展開していくことが重要であります。

JAグループ北海道は、昨年開催した第27回JA北海道大会において、組合員の総意のもと「持続可能な北海道農業の実現」と「次代を担う協同の実践」を決議しました。

時代の変化とともに農協の組織・事業の在り方についても、必要な見直しを行っていくことが求められますが、そのことは、「ひとりとは万人のために、万人はひとりのために」との協同組合の基本理念を前提に置いた取組みであることが重要であります。

関係者総力のもとで農業環境の改善に向けた努力を傾注するとともに、若手農業者への農協理念の継承、女性農業者の農協事業への参画等を併せて行いながら、地域農業・JAを担う人材づくりをいかに進めていくかが喫緊の最重要課題であると考えます。

また、JAの対外的な役割並びに責任が高まっている昨今にあつては、必要な自己改革を進めながら、組合員をはじめ地域住民・消費者のニーズに応えうる事業展開とJA事業への結集による競争力強化、健全なJA経営態勢の確立、農業・JAの理解促進に向けた情報発信等を進めていくことが重要であります。

「農」は国のいしずえであり、食は命に直結するものであります。長年にわたり先代が築き上げた本道農業並びに農業協同組合の基盤をさらに強固なものにし、後世にしっかり継承するよう共にならばよろしいでしょうか。

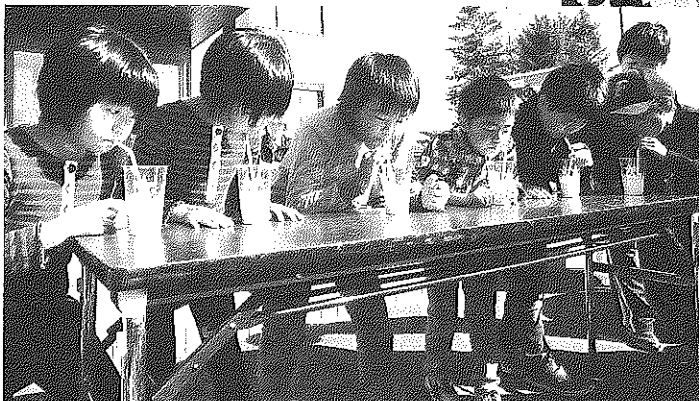
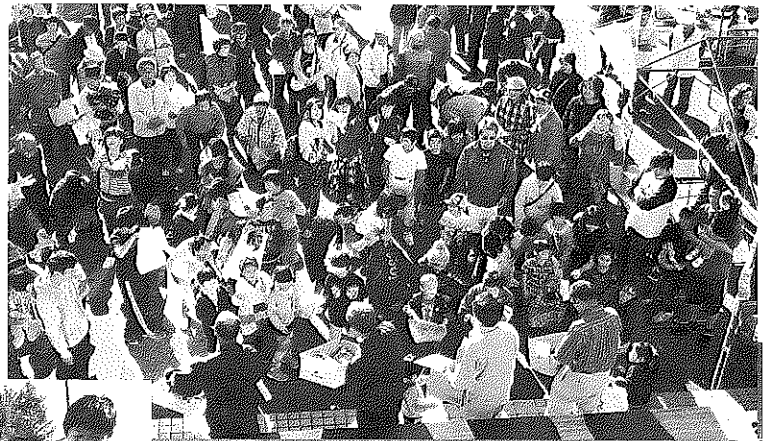
今後とも本道農業並びにJAがますます発展することを心より祈念し、農協法公布記念日にあたってのご挨拶といたします。

2013 第33回 Aコープゆうべつ芭露 収穫感謝祭



風景写真にもありますが、ちよっぴり寂しい感じの収穫祭になりましたが、ホタテ釣りコーナー、モツ鍋コーナー、牛肉販売コーナーなど定番のコーナーもあり、お菓子まきやビンゴ大会で盛り上がり幕をとじました。

10月12日、芭露支所事務所前駐車場で、Aコープゆうべつ芭露収穫感謝祭を開催しました。当日は晴天に恵まりましたが、早朝からの突風により、危険防止のため屋根をはずす作業が行われました。



第33回 湧別町産業まつり

9月23日、第33回湧別町産業まつりが開催され、当JAも協賛で女性部が野菜を販売し、Aコープ湧別店では、地元産牛肉の「ゆうべつ牛」を販売しました。



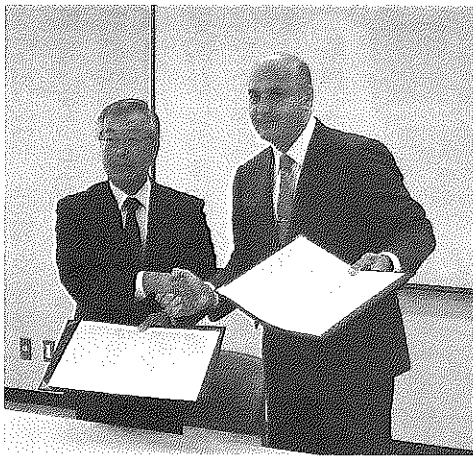
ロシアユジノサハリンスク
(有)アングルスナフ社と
野菜取引契約を調印

先日、当組合においてアングル
スナフ社と野菜取引に係る契約書
に双方が調印し、今年から、サハ
リンへ青果を輸出するルートが築
かれました。

今年の、2月から交渉に入りよ
うやくここまでごきつけ、10月20
日に初出荷し、無事25日にはサハ
リンの店頭に並びました。

今回は、キャベツ、人参、大根
更にJAえんゆうの協力を得て玉
ねぎを積み込みました。

今年は、もう一回輸出する予定
で、来年に向けては、更に取引が
増え組合員の収益の増につながれ
ばと思っております。



よつ葉ミルクフェア
IN TOKYO

去る9月20日〜22日、東京都内
にある北海道とさんこプラザにて
牛乳消費拡大運動を行い、女性部
2名と職員1名が参加しました。

当日は30度を超える気温の中、
よつ葉の牛乳を少しでも多くの方
に試飲して頂けるように、消費者
に声かけを行い、乳製品の事も、
もっと理解して頂けるよう頑張り
ました。消費者と直に接すること
により、生の声を聞く事が出来と
ても勉強になりました。これから
も消費者の皆様喜んで飲んで頂
けるように生産していきたいと思
います。



2013 北海道ホルスタイン
ナショナルシヨウ

9月26日〜29日にかけて201
3北海道ホルスタインナショナル
シヨウが安平町早来で開催されま
した。

当JAでは7頭が出陳され、成
績を競いあいました。
成績は次の通りです。

第1部 1等2席 ウエダファア
ム ヒラリー オリーブ スパ
ーク 上田 一成

第3部 3等1席 ヘンカシーン
テイストライ ヒラリー
ドリムシンジケイ

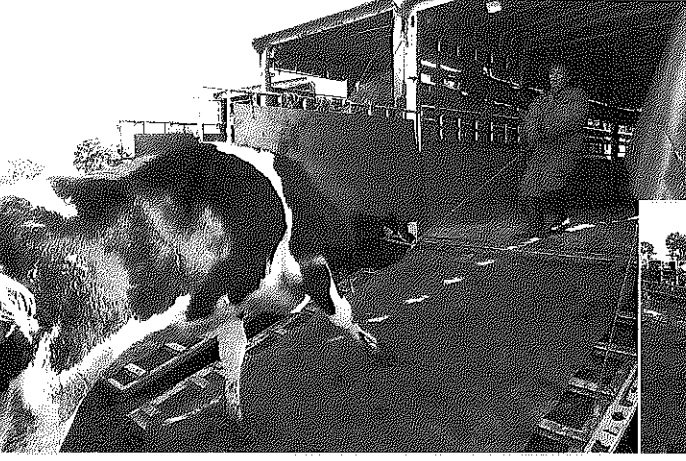
第4部 1等3席 シティビュー
ブラクストン ブーマー
山田 和弘

第8部 2等10席 ヘンドリカ
サム ラステイ 菅井 慎也

第9部 2等8席 レークランド
C ダンディー パラダイス 久保 拓也
第9部 2等10席 レークランド
DD チーフ エイミー ET 久保 拓也
第11部 2等1席 モナーク チ
ャンピオン ベチー 菅井 慎也

川西・芭露牧野閉牧

10月26日芭露地区、10月28日川
西・東地区の下牧が行われました。
今年は、春からの干ばつに続き、
お盆過ぎには
雨が続いたた
め、牧草の生
育が悪く、牛
も例年に比べ
て、下げる頭
数が少なかつ
たようです。



農協 お知らせ版

平成25年度 第9回理事会
平成25年9月27日開催

報告事項

- ①よつ葉乳業取締役会
- ②オホーツクJA畑作・青果対策委員会
- ③アンコルスナブ社との野菜売買契約の締結について
- ④オホーツクJA組合長会
- ⑤経営定期点検結果の報告について
- ⑥平成25年8月末生乳生産実績
- ⑦自由金利型定期貯金の受入れと貯金残高の推移
- ⑧組合員の営農実績について

協議事項

- ①監査機構監査の指摘事項に対する回答について
- ②監事監査の指摘事項に対する回答について
- ③収穫感謝祭の開催について
- ④組合員の異動について
- ⑤平成25年度 原料甜菜受渡業務立会人の推薦について
- ⑥平成25年度 肥料大口需要対策

実施要領の制定について
⑦家畜預託規程の改正について

平成25年度 第10回理事会
平成25年10月22日開催

報告事項

- ①全道共進会の結果について
- ②TPP交渉参加反対全国集会
- ③畜魂碑慰霊祭
- ④平成25年9月末生乳生産実績
- ⑤自由金利型定期貯金の受入れと貯金残高の推移
- ⑥組合員の営農実績について

協議事項

- ①組合員の異動について
- ②畜産特別資金の貸付について
- ③高齢者に対する記念品の贈呈について
- ④自己査定に係る資産評価額の設定について
- ⑤平成25年度 JA共済コンプライアンス点検結果および改善方針の概要について
- ⑥オホーツク農業（酪農畜産）の目指すべき姿に向けたJA意見の取りまとめについて
- ⑦規程類の改正について
- ⑧営農懇談会の開催について



普及センターより

畜産

「寒さから子牛を守る」

冬がくる前に寒さから子牛を守る対策を取ることが望まれます。

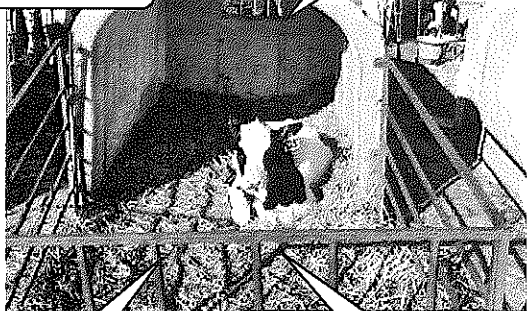
(一)子牛が寒さを感じる時

子牛は体温を奪われることで寒さを感じます。例えば体が濡れている状態で風にさらされると体温を奪われ、体力を消耗して下痢や風邪の発生につながります。

(二)子牛にとって快適な環境とは

②風は当たらないが新鮮な空気が吸える場所

①寒さをしのぐ場所



①～③の場所を子牛が自由に選べるのが理想です

③外に出て日光に当たれる場所

(三)寒さを感じさせないために

出生直後の子牛は、十分に体を拭き被毛が乾いてからカーフハッチなどへ移動します。カーフハッチの設置場所は開口部を南向きとし、冷たい北風が入らないようにします。また、常にきれいで乾燥した環境をつくるため敷料はこまめに交換します。

(四)それでも寒い場合・弱い子牛の場合

②電気ヒーターなどの保温器具
周りを囲うことが必要です

①カーフジャケットの使用
あまり脱ぎ着をさせると体温調節がうまくできなくなります



一級整備士誕生

10月10日付で当農協整備工場に初の一級整備士が誕生した。北見管内に二級以上の資格を持つ整備士が約3,600人いる内、一級を取得している整備士は40人、遠軽地区においては4人と取得することはかなり難しいとされている中、見事当農協整備工場の荒井康が一級を取得しました。

荒井は平成23年5月に当農協整備工場へ入職（前職旭川トヨタ）期待の整備士である。

以前の当農協整備工場はあまり良いイメージが持たれていない時代があったが、近年は二級整備士が6名の内5名が検査員取得、農業機械一級技能士1名、そしてついに1級整備士が誕生しました。

近年にない高度な技術を持った整備士がそろい、最近人気のハイブリット車の整備も経験豊富な人材がそろい近隣の工場に負けない整備士を有する工場となりました。

今後も全ての整備士が検査員を取得し（残り1名）、また北見管内由一の防錆加工タフコートを施工出来る工場として、近隣の工場にはない魅力ある整備工場として頑張っていきます。

より多くの組合員の皆様のご利用を工場職員一同お待ちしております。



タフコート

あなたの愛車をサビから守ります
世界No.1 サビ止めブランド



- ・融雪剤（凍結防止剤）による車体の傷み、サビ
- ・海風、海水や酸性雨による車体の傷み、サビ

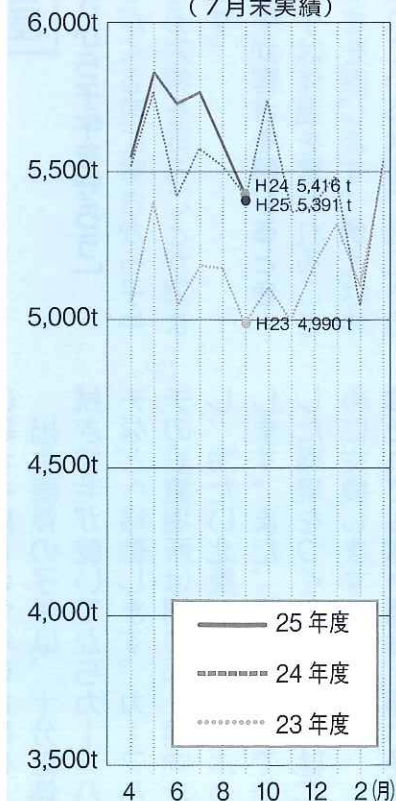
などから、あなたの愛車をまもります！

タフコートディーラー
(タフコートライセンス所有会社)

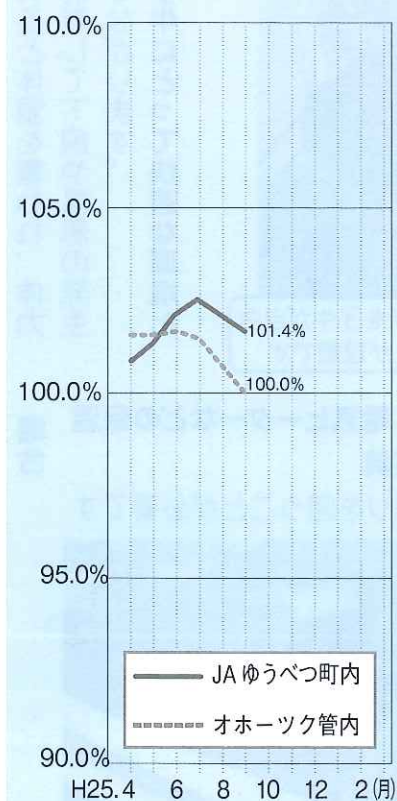
JA ゆうべつ町車両整備工場

平成25年度 生乳出荷状況について

JA ゆうべつ町生乳出荷乳量推移
(7月末実績)



生乳出荷乳量との前年比較



平成26年1月から、記帳・帳簿等の保存制度の対象者が拡大されます。

平成26年からは、事業所得、不動産所得又は山林所得を生ずべき業務を行うすべての方について、記帳・帳簿書類の保存が必要となります。なお、この記帳と帳簿書類の保存制度につきましては、所得税及び復興特別所得税の申告が必要のない方も対象となります。

詳細は、国税庁ホームページ (<http://www.nta.go.jp>) をご覧いただくか、紋別税務署 (電話0158-231219) まで、お問い合わせください。(お電話でのお問い合わせの場合は、自動音声にしたがって「2」を選択後所得担当にお問い合わせください。)